歩み重ね 栃響新たな楽章へ

本県音楽振興に貢献

「県民のオーケストラを栃木県に!」。1970（昭和45）年1月、音楽を通じた本県の芸術文化向上を期し、栃木県交響楽団・栃響は誕生しました。それぞれが仕事を持つアマチュアが集ったオーケストラは、平日夜の練習会などで演奏技術を磨き、同年12月23日に記念すべき第1回定期演奏会（定演）の開催にこぎつけました。定演、県内巡回演奏会など地域に密着した活動に加え、74（昭和49）年には県音青少年音楽祭出演のためデンマークへ、89（平成元）年には地方のアマチュアオーケストラとして初めてサントリーホールに出演しました。全国でも有数のアマチュアオーケストルとして、栃響は誕生から46年を経たこの2016（平成28）年1月31日、県総合文化センターで第100回定期演奏会を迎えます。指揮に末廣誠氏、チェロに宇都宮市出身の宮田大氏を迎え、ベルリオーズ「幻想交響曲」とドボルザーク「チェロ協奏曲」を披露する予定です。

来年1月31日、第100回定演

念願の「県民オケ」1970年誕生

戦争の傷跡が残る1946（昭和21）年、宇都宮高校に一人の男性教諭が赴任しました。後に栃響を率いて、デンマークで行われたコペンハーゲン世界青少年音楽祭において最優秀賞を獲得した岩本信吾氏です。まだ食料すら満足に手に入らない時代にあっても、若者たちに音楽の重要性を訴え、赴任したその年の秋、宇都宮高校に一人の男性教諭が赴任しました。後に栃響を率いて、デンマークで行われたコペンハーゲン世界青少年音楽祭において最優秀賞を獲得した岩本信吾氏です。まだ食料すら満足に手に入らない時代にあっても、若者たちに音楽の重要性を訴え、赴任したその年の秋、宇都宮高校に一人の男性教諭が赴任しました。

戦後間もなくから、多くの本県音楽関係者の地道な活動を通してまかれた音楽の種は、着実に芽吹き、プロ、アマチュア問わずたくさんの音楽家、音楽愛好家が育ちました。栃響の音楽家、音楽愛好家の一つは終戦直後の先人たちの努力にあるともいえます。

60年代に入ると、隣県の群馬交響楽団をはじめ全国各地で地域を拠点とするオーケストラが声を上げ始めました。一方の本県でも、64（昭和39）年には須賀川、県内初の特別公演を成功させています。

もちろん、中国浙江省、サントリーホールなどでの特別公演は2回、県内全域での音楽文化向上を期待した巡回コンサートは101回も行われました。県議会議事堂エントランスホールなどで行う県議会コンサートは78回、コンセールマロニエ優勝者と共演する特別演奏会も10回を数えます。

日頃、コンサートに足を運びにくい子ども連れにも気軽に音楽を楽しんでもらおうと企画した親子のための「ファミリーコンサート」等も17回実施し、好評を博しています。

2012年には小編成の「栃響チェンバーオーケストラ」を編成し、クラシック門講座など県民の多様なニーズに応えてきました。今後も県民の音楽文化向上を期し、地域に根差したオーケストラとしての活躍が期待されます。

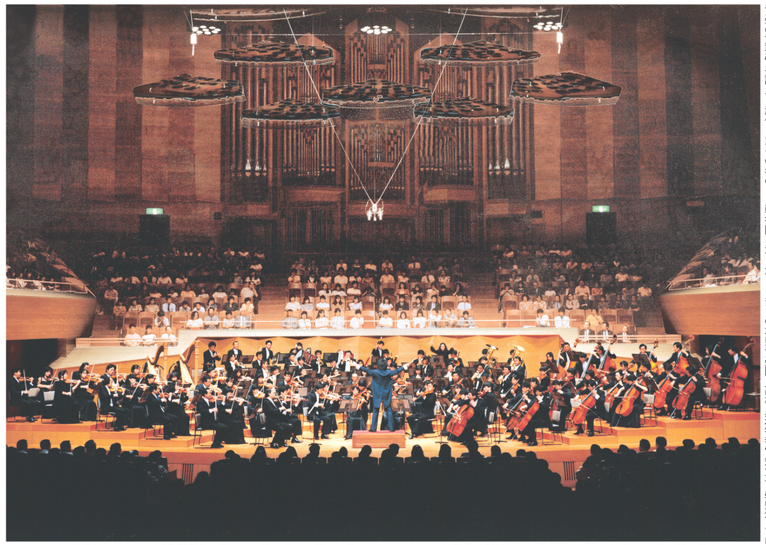
地域密着の活動に力注ぐ

現在の栃響は会社員や公務員、教員、宇都宮短大音楽科も創設されました。本県の音楽文化も高まりを見せる中、「栃木にもオーケストラを」という声も徐々に大きくなっていき、69（昭和44）年の都宮短大音楽科が発足し、67（昭和42）年には主婦などのアマチュアの楽団員140人余りを誇り、全国に名を知られるアマチュアオーケストラへ成長しました。今回の公演で100回を迎える定演は、県内全域での音楽文化向上を期待した巡回コンサートを特別公演として行う県議会議事堂エントランスホールなどで行う県議会コンサートは78回、コンセールマロニエ優勝者と共演する特別公演も10回を数えます。

宇都宮市出身の栃響は会社員や公務員、教員、宇都宮短大音楽科も創設されました。本県の音楽文化も高まりを見せる中、「栃木にもオーケストラを」という声も徐々に大きくなっていき、69（昭和44）年の都宮短大音楽科が発足し、67（昭和42）年には主婦などのアマチュアの楽団員140人余りを誇り、全国に名を知られるアマチュアオーケストラへ成長しました。今回の公演で100回を迎える定演は、県内全域での音楽文化向上を期待した巡回コンサートは101回も行われました。県議会議事堂エントランスホールなどで行う県議会コンサートは78回、コンセールマロニエ優勝者と共演する特別公演も10回を数えます。

日頃、コンサートに足を運びにくい子ども連れにも気軽に音楽を楽しんでもらおうと企画した親子のための「ファミリーコンサート」等も17回実施し、好評を博しています。

2012年には小編成の「栃響チェンバーオーケストラ」を編成し、クラシック門講座など県民の多様なニーズに応えてきました。今後も県民の音楽文化向上を期し、地域に根差したオーケストラとしての活躍が期待されます。



1989年8月27日、地方のアマチュアオーケストラとして初めて、サントリーホールでの公演を行った栃響。小林研一郎氏（写真中央）の指揮で奏でられたベルリオーズ「幻想交響曲」は、栃響の歴史に大きな足跡を残した（栃木県交響楽団提供）

浙江省などで海外公演

サントリーホールは3回

創立から4年目には定演も12回を数え、積極的な演奏活動の成果から県域オーケストラとして多くの県民の支持を集めるようになりました。その栃響に転機が訪れたのは、昭和49年4月。デンマークのコペンハーゲンで行われる世界青少年音楽祭に出演するため海外公演に臨んだのです。派遣員80人はテンマーク各地で演奏会を開催し、本県ランマークの国際交流に貢献しました。音楽祭では石井氏と田渕氏の指揮でメンデルスゾーン「バイオリン協奏曲」などを演奏し、最優秀賞を獲得。栃響の名が「一段と高まる結果となりました。

80（昭和55）年6月には念願としたほかりの宇都宮市文化会館で創立10周年記念第29回定演を開催。ベートーベン「交響曲第9番（第九）」を演奏し、新しい音楽拠点の完成と自身の「10歳」を祝いました。創立当時はアマチュアオーケストラゆえに、転勤や結婚などで楽団員がなかなか定着せず苦労も重ねましたが、楽団員、関係者の努力でそれらの課題も年々解消されていきました。創立10年を経て、第7代会長には初代理事長の岩本氏が就任。新たな理事長には、初代会長を務めた父・須賀左氏を迎え、栃響設立時に行政側との実務的な橋渡しなどに力を尽くした、現須賀川市国学園理事長の須賀淳氏を迎え、楽団員115人を擁する県内の活動力を付けてきた栃響は陣容へと成長を遂げていました。

89（平成元）年9月、会長に就任した須賀淳氏、理事長を務めた後の足利市長で当時県議会の責任者天矢氏の尽力により、関係各所との調整、県からの支援を取り付け、満を持して東京公演に臨みました。栃響は、新しい音楽拠点の完成と自身の「10歳」を祝いました。創立当時はアマチュアオーケストラゆえに、転勤や結婚などで楽団員がなかなか定着せず苦労も重ねましたが、楽団員、関係者の努力でそれらの課題も年々解消されていきました。創立10年を経て、第7代会長には初代理事長の岩本氏が就任。新たな理事長には、初代会長を務めた父・須賀左氏を迎え、栃響設立時に行政側との実務的な橋渡しなどに力を尽くした、現須賀川市国学園理事長の須賀淳氏を迎え、楽団員115人を擁する県内の活動力を付けてきた栃響は陣容へと成長を遂げていました。

89（平成元）年9月、会長に就任した須賀淳氏、理事長を務めた後の足利市長で当時県議会の責任者天矢氏の尽力により、関係各所との調整、県からの支援を取り付け、満を持して東京公演に臨みました。

栃響の再び海を渡ったのは94年。本県と中国浙江省との友好提携記念事業として、栃木県交響楽団友好使節団が編成され、浙江省杭州市で記念公演を行いました。約十二人の観衆は、チャイコフスキー「交響曲第5番」などに酔いしれ、質の高い演奏に熱烈な拍手が送られました。本県と浙江省の友好交流に大きな足跡を残した、栃響の感動の演奏でした。

栃木県交響楽団は、1970年、音楽を愛する県民の熱い思いにより結成されました。以来45年間にわたり、栃木県の芸術・文化の向上に寄与するという、崇高な理念を使命に向かって精力的に活動を展開してまいりました。このたび第100回定期演奏会を迎えることができましたのは、これまで足を運んでいただいた栃響ファンの皆様、並びに栃木県交響楽団は、栃響をはじめ関係者の方々から温かい御支援と援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

これまでの歩みを振り返りますと、本当に数多くの演奏機会を与えていただきました。とりわけ、東京公演は、栃響が大きく成長する重要なステップとなりました。また、演奏会のたびに頂いた身に余る拍手もやはりプロとは、仕事や家庭との両立をはじめ、多くの方々から温かい御支援をいただいてまいりました。

栃響は、巨大活動する中、今日まで、県内各地に10にのぼるアマチュア・オーケストラが誕生するという活況、第100回定期演奏会は、

栃木県交響楽団会長　須賀　英之氏

郷土への思い音楽に乗せ

東京・欧州・中国における、やソリストとの共演は、栃響が大きく成長する重要なステップとなりました。また、演奏会のたびに頂いた身に余る拍手もやはりプロとは、仕事や家庭との両立をはじめ、多くの方々から温かい御支援と援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

これまでの歩みを振り返りますと